

“最高エネルギー宇宙線観測の進展”

福島 正己 氏
(東京大学宇宙線研究所 教授)

アルゼンチンのオージェ実験と米国ユタのT A実験が、新世代検出器による最高エネルギー宇宙線の観測を始めてから数年がたった。

2つの実験は、それぞれ南北半球の広大な地表に検出器を展開して、エネルギーが10の20乗電子ボルトに至る、極めて稀な宇宙線の観測を行っている。新たな観測データから何が判って来たのか、到来する宇宙線の粒子種は？限界エネルギーは観測されたのか、発生源天体は同定できるのか、などの基本的な疑問に対して、T Aとオージェが、今どのように答えているかレビューする。また将来の見通しを語る。

2011年5月17日(火) 13:30 -
於 理研 仁科ホール

Contact: RIBF Nuclear Physics Seminar Organizer
npsoc@ribf.riken.jp
<http://ribf.riken.jp/~seminar/>